



志岐高便り

第168号

発行責任者
平山 啓一



携帯
サイトへ

長崎県立志岐高等学校

[TEL] 0920-47-0081

長崎県志岐市郷ノ浦町片原触88

[HP] <http://www2.news.ed.jp/section/iki-h/>

巻頭言



「大和魂」

校長 平山啓一



大変嬉しいニュースが届きました。

奈良大学主催の第13回全国高校生歴史フォーラムにおいて、本校東アジア歴史・中国語コース2年生の研究が優秀賞に選ばれました。志岐南西部に位置する車出遺跡の地表調査を通して古墳時代の様相に迫る研究が、全国から寄せられた140を超える研究の中からトップ5の一つとして評価されたのです。県全体の半分以上の古墳が点在する島の高校として、大変意義深く思います。400にも及ぶ遺物を採集するなど、地道な研究に取り組んだ歴史学専攻の生徒たちの努力を称えるとともに、温かくご指導いただいた長崎県埋蔵文化財センターの皆様には深くお礼を申し上げます。

秋も深まりましたが、かつてない巨大台風が未曾有の爪痕を残していきました。台風19号による被害の全容が明らかになるにつれて、想像を超える深刻さに言葉もありません。ただただ被災された皆様が、一日も早く通常の生活に戻れますことをお祈り申し上げたいと思います。

そんな中、佳境に入ったラグビーW杯では、日本代表が悲嘆に暮れる人々を勇気づける活躍を見せてくれました。決勝トーナメントをかけた試合では、被災者を慮り試合を躊躇する選手もいる中、「勝利を届けることが最大のメッセージ」と、心を一つにして懸命に戦う姿が言葉にならない感動と勇気を与えてくれました。8年前、巨大津波がもたらした深い悲しみを、なでしこジャパンのW杯優勝が勇気づけてくれたことを思い出します。当時、神がかり的な勝利を重ねた選手たちを支えたのは、「勝利で日本に元気を送りたい」という思いでした。ラグビー日本代表の選手たちも同じような思いで戦ったことでしょう。

日本代表の半数は、外国出身の選手です。ワンチームになるために、彼らは日本について学びます。合宿所に置かれた甲冑や日本刀。彼らの中に日本文化が浸透していきました。その一つが「大和魂」です。

広辞苑には、「学問上の知識に対する、実生活上の知恵や才能」「勇猛で潔いという、日本民族固有の精神」の二つの意味が書いてあります。選手たちを支えたのは後者でしょうか。

「大和魂」、もともとは前者の意味でした。源氏物語に初めて認められます。平安の時代、中国からもたらされる学問の習得が競われました。日本人が本来持つ知恵や感性が軽んじられる風潮に対して、紫式部の危機感がこの言葉を生んだと言われています。知識も大事だが、それ以上に日本人としての感性や知恵を磨くことを忘れてはならない、と。

グローバル化の進む社会だからこそ、自国の文化のよさを知り、大事にしなければなりません。即位の礼の荘厳さ、日本代表の「犠牲」の精神、被災地での思い合いの姿、…、私なりの解釈で「大和魂」を感じました。

どの国にもどの土地にも、大切な歴史があり文化があります。そのことを忘れることなく、敬意を表して、グローバルの時代を歩んでいきましょう。

第 3 学 年 よ り



10月8日にセンター試験100日前集会が行われ、受験を予定している72回生112名が参加しました。校長

先生や学年主任による激励の言葉、代表生徒たちによる決意表明など、学習意欲や向上心が一層高まるような内容でした。生徒達も、決意を新たに、自己の進路実現に向け熱心に自学や質問に励んでいます。

また、現在は全職員で大学・短大・専門学校等の推薦入試の面接・小論文指導を行っています。「志望の動機」「高校時代に頑張ったこと」「将来何をしたいか」など、自分自身を振り返り、自分の考えや意見を他に伝える練習を行っています。ぜひ、ご家庭でもお子様と一緒に、そのような話や質問をしていただけたら幸いです。

今後は、進路決定者が少しずつ出始め、進路が確定していないことに焦りや不安を抱える生徒も出てきます。進路決定者もそうでない生徒も、一人ひとりが今何をすべきか真剣に考え、行動に移してほしいと思います。

第 2 学 年 よ り

2学期が始まり、早くも2ヶ月が経ちました。気温が下がり肌寒い朝が来ると、秋の到来を感じます。秋といえば、「読書の秋」「食欲の秋」など、いろいろな表現があります。73回生の皆さんには、この秋を実りあるものにしてほしいと思います。

まずは、「学習の秋」です。11月3日、4日には進研実力テストが実施されます。初めて5教科で行われる全国総合学力テストです。このテストに向けて、全力を注いでほ

しいと思います。授業や課題で分からないところがあれば、是非先生方や友人に質問してください。学年全体で「学習の秋」を深めましょう。

そして、「部活動の秋」。11月は各種新人戦や県の総合文化祭等も開催されます。本番で日頃の努力を100%発揮できるよう、これからも部活動に全力で取り組んでいきましょう。

最後に、君たちは将来、変化の激しい社会を生き抜いていかなくはいけません。今の学校生活は、その社会で生きていくための礎を創るためにあります。日々の学習や部活動を大切にしてください。この秋の君たちの成長を期待しています。

第 1 学 年 よ り

秋といえば、食、スポーツ、読書、勉強など様々なことを堪能したり、それらに打ち込んだりするのに適切な時期です。1学年では7時間目の学年の時間で学級読書を2回実施しました。日本語の読書に加え、自分の興味とレベルに合った英語での読書も行いました。

先日行われた競技大会では、先輩たちに負けるまいと一生懸命競技に励み、選手に応援を送る姿に仲間との絆の深まりを垣間見ました。

部活動でも新人戦に臨んだ生徒も多く、この半年間で培った成果を発揮しながらも、それぞれの生徒が自分の課題を見つめ直す機会となりました。

さて、11月の初旬には110周年記念行事が控えています。壱岐高校の歴史を振り返り、今自分たちが何をすべきか考える機会にしてもらいたいと思います。また、翌日行われる進研模試では前回の経験を踏まえ、万全な準備で臨み、全員が学力の伸びを感じられるような模試にしましょう。

老岐高Topics!

11月行事予定 ①1年 ②2年 ③3年

「競技大会」

10月21日(月)、本校にて競技大会が開催されました。サッカーやバスケット、バドミントンに卓球とさまざまな競技が実施されました。特に3年生は部活動も引退し、受験勉強真っ只中でなかなか体を動かす機会がありませんでしたが、この日はどの学年よりも躍動していました。受験勉強のいい気分転換になったと思います。もちろん1・2年生も3年生に負けじと元気な姿で競技に臨んでいました。



1	金	冬時間開始 6校時：記念講演会
2	土	創立記念日 110周年記念式典(老岐の島ホール)
3	日	【文化の日】 進研・駿台共催M模試③
4	月	【振替休日】 進研・駿台共催M模試③
5	火	【代休11/9】
6	水	京都府立亀岡高等学校2年生訪問
7	木	LHR (高総体駅伝報告会、生徒総会議案書検討)
8	金	県総文祭総合開会式(~18)
9	土	授業日(火曜日時間割) 中学生向け授業体験
10	日	九大オープン模試③
11	月	
12	火	進路ガイダンス①②
13	水	
14	木	LHR(薬物乱用防止教室)
15	金	
16	土	センター試験プレテスト(河合塾)③ 学校開放(終日)
17	日	センター試験プレテスト(河合塾)③
18	月	生徒評議委員会
19	火	
20	水	
21	木	考査時間割発表
22	金	7校時：生徒総会
23	土	【勤労感謝の日】 小論文模試③ 学校開放(半日)
24	日	中国語検定
25	月	
26	火	
27	水	
28	木	期末考査①②③
29	金	期末考査①②③
30	土	学校開放(半日)

進路支援部より

1年生は10月7日にSFCフォーラムより井上孝志先生をお招きして、論理コミュニケーションのガイダンスを行いました。先生は「世代や生活環境、文化が異なるほど、話は伝わらないから、論理的に伝えることが大切である」とお話しされました。

2年生は9月24日に学年集会を行い、11月の模擬試験に向けて、成績の現状と志望校の目標値を確認し、今後の学習計画を立てました。

3年生は10月8日にセンター100日前集会を行いました。校長先生は「必死に、妥協せず、本気度を上げること」、齋宮先生は「積極的に質問に行くこと」をお話しされました。生徒からも5人が決意表明をしました。その中には「みんなで進路実現を目指したい」と話す生徒もおり、3年生が結束を強める良い機会になりました。

3学年とも学力向上に向けて、具体的に行動する秋にして欲しいと願っています。

生徒支援部より

令和初となる煌雪祭(文化祭)が、壱岐高校の歴史を振り返るオープニングムービーとともに静かに幕開けしました。

「拓け 輝け 羽ばたけ」～僕らの翼 虹の向こうまで～をテーマに9月20日・21日の両日煌雪祭を開催しました。本年度は、壱岐高校110周年記念ということもあり、地域と連携したロータリーマーケットや、文化部コラボレーションにも取り組みました。

1日目は、文化部コラボレーションからはじまり、校内での取り組みの発表や、文化部表等が行われました。2日目も、ステージでは各部活動等の発表が行われるとともに、クラス企画では、様々な工夫を凝らした、展示や劇等が行われました。

今年度は、多少の強風が吹く中ではありましたが、来校者も多く大変賑わった2日間となりました。そして、閉会セレモニーでは校歌大合唱を行い、職員、生徒が肩を組んで本校校歌と虹の原特別支援学校の校歌を歌い、今年の輝雪祭は幕を閉じました。



～李先生コラム 『上海のごみ分別(2)』～

前回の話の続きです。新しく導入されたごみの分別が話題になりました。しかし、分類は市民たちにとってはなかなか分かりにくく、難しいところがあります。例えば、タピオカミルクティーの場合、タピオカは生ごみ、カップはそのままで生ごみ、洗うとリサイクルごみになります。ごみを減らそうとしている人は「タピオカミルクティーのタピオカを10粒だけにしてくれ」というリクエストや「串焼きの、串はいりません」、「貝の炒め物の貝殻は不要です」などのおかしな注文もありました。日本でも人気のコロナビールはカットしたライムを中に入れて飲みますが、「ライムは生ごみ、瓶はリサイクルゴミなので上海では入れずに飲むようになった」とのジョークもできました。そのほか、市民たちは分かりやすいごみ分別判断方法を次のようにまとめました。「豚が食べれば生ごみ、豚が食べないと乾燥ごみ、豚が食べたなら死ぬのが有害ごみ、売ったら豚と交換できるのがリサイクルごみ。」上海も環境を良くするために努力をしています。みなさんもきちんとごみの分別をして、壱岐のすばらしい自然を守りましょう。